主要な視点場の設定の考え方（大阪城公園周辺）

参考資料 4-1

（１）景観の現況と特性

難波宮の造営

4 世紀の後半から遣新羅使や遣隋使・遣唐使などを通し、朝鮮半島や中国大陸などとの交流が盛んに行われるにつれ、海外の文化・技術・情報などを受け入れる我が国の国際交流の窓口として重要な役割を担ってきた。7 世紀に難波津に近い場所に「難波宮」が造営されてからは、約 150 年に渡り大阪は我が国の政治・文化の中心地であっただけでなく、渡来人たちも居住する国際都市でもあった。こうしたことから、古代から文明が発達していた上町台地上には現在でも歴史的な資産が数多く残されている。

蓮如による石山本願寺寺内町の形成

1496（明応 5）年には、現在の大阪城が位置する上町台地の北端に、浄土真宗の僧蓮如により、石山本願寺（当初石山御坊）が建立されたといわれている。この境内では商人等が住まう「寺内町」が形成され、「大坂」というまちが誕生した。しかしその後、本願寺が織田信長と争い、1580 年（天正 8）8 月に大阪を明けわたして去ると、寺内町も消失した。

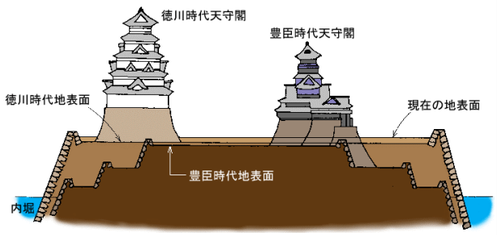
石山本願寺門前町繁昌之図

大阪城の築城と城を中心としたまちづくり

近代都市大阪の母体となる“まちづくり”は、石山本願寺跡での豊臣秀吉による大坂城の築城と、武家屋敷、寺町、町人町等で構成する壮大な城下町の建設が始まった。

織田信長のあとをついで国内統一をすすめていた秀吉は、1583 年（天正 11）に大坂城の築城にとりかかった。もとの寺内町は全体が城に改造され、その外側に新しい城下町が建設された。武家屋敷は城の南と西に、寺町は大川北岸の天満と城の南側の上町及び谷町に、町人町は東横堀川西の船場及び天満に計画的に定められた。

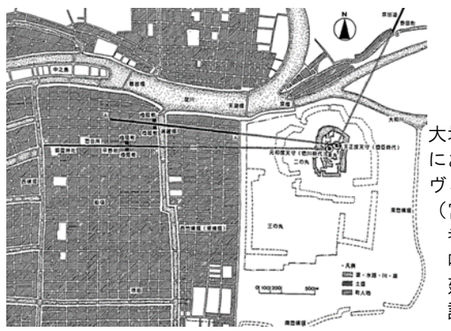
大坂城は 1615 年(元和元)の大阪夏の陣で焼け落ちたが、そのあと徳川幕府によって、城下町も再建され、西国支配の拠点となった。



各年代の大阪城の断面

櫓屋敷とヴィスタ

高麗橋通の東の先は豊臣時代の天守、平野町通の東の先は徳川時代の天守の位置にあたり、これらの街路からは両側にそびえ建つ櫓屋敷の間を通して天守を望むという構図が得られ、同時に天守からは櫓屋敷に挟まれたこれらの街路の見渡しが得られていたと考えられる。城下町の都心景観の演出として櫓屋敷は三階建禁止令や軒下制限下でも建てられ維持された。



大坂城下町復元図における櫓屋敷とヴィスタ
（宮本雅明、櫓屋敷考（下）ーその意味と機能ー、日本建築学会計画系論文報告集）

浪花百景に見る大阪城

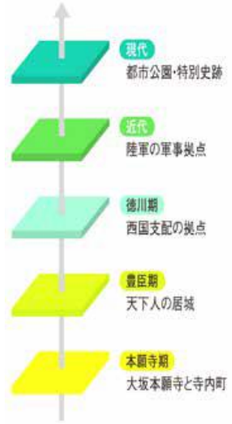
江戸時代末期、大阪の名所を舞台に当時の人々の生活や風景が描かれた浪花百景では、大阪城周辺も数多く描かれている。

「浪花百景」
左：錦城の馬場
中：天満ばし風景
右：川崎ノ渡シ
月見景

市民の寄付による天守閣の復興、公園の建設

明治時代以降は、大阪鎮台（陸軍第 4 師団）が管理する軍事拠点となったが、昭和 3 年、当時の市長 関一が大阪城天守閣の復興を提案し、市民からの寄付金を募ったところ約 150 万円（現在の約 750 億円相当）が集められ、天守閣が復興し、公園が整備された。

復興した天守閣は、本市のシンボルとして愛されており、また、都市公園は緑豊かなオープンスペースとして市民の憩いの場となっている。



大阪城の変遷

景観に関する取組み

昭和 9 年より大阪城公園西側の上町筋沿道を旧美観地区に指定し、公園を中心とした豊かな緑を維持してきた。

夜間景観としては、昭和 58 年にライトアップ大阪計画を策定し、天守閣のライトアップを実施している。

大阪城の周辺では、北東に建設された陸軍の大阪砲兵工廠が不発弾の危険性から長年放置されていたが、昭和 45 年に、当時の地権者により、大阪ビジネスパーク開発協議会が組織され、ビジネス街としての開発が進められ、現在の洗練されたオフィス街の景観が形成された。市と OBP 開発協議会は、地区のビル計画の検討にあたって、大阪城から OBP 地区を通してみる景観に関する配慮を申し合わせるなど、大阪城との関係を重視しながら開発を行った。

近年の状況

現在、大阪城は、大阪を代表する観光地となっており、年間 250 万人を超える観光客が訪れる。平成 24 年 12 月に府市で策定された「大阪都市魅力創造戦略」において、大阪城公園が重点エリアに位置づけられ、民間事業者の柔軟かつ優れたアイデアや活力を導入し、世界的な観光拠点に相応しいサービスの提供や新たな魅力の創出を図るため、民間主体の事業者が公園全体を総合的かつ戦略的に一体管理するＰＭＯ事業が導入されている。

JO-TERRACE OSAKA

新たな開発動向

新たな開発が予定される大阪城公園周辺に位置するエリアにおいては、大阪城の歴史や都市公園の緑豊かな景観に調和した景観形成が求められる。

※大阪市景観計画（第 2 章　景観の現況と特性）及び大阪市立図書館 HP より

（２）主要な景観資源

大阪城公園周辺においては、現在登録している都市景観資源を主要な景観資源とする。

○…登録している都市景観資源

主要な景観資源			概　要
○	大阪城天守閣	建築物	大阪城は、天正 11 年（1583 年）豊臣秀吉により築かれたが、大坂夏の陣で焼失、堀も石垣も全て徳川幕府の手で作り直された。天守閣は、その後落雷により焼失したままであったが、昭和 6 年（1931 年）、市民の寄付により豊臣秀吉創建時の姿に再建されたもので、鉄筋コンクリート造、外部 5 層、内部 8 層で、館内は秀吉と大阪城を中心とした歴史博物館として活用されている。平成 9 年（1997 年）の大改修により美しい姿がよみがえっている。
○	大阪城公園	公共施設	大阪城公園は、都心に位置する開設面積約 105.6ha の史跡を中心とした広大な歴史公園である。外濠に囲まれた 73.4ha は国の特別史跡に指定されており、多門櫓(たもんやぐら)・千貫櫓(せんがんやぐら)など 13 棟の重要文化財を有するほか、大阪城天守閣や約 600 本の桜を楽しめる西の丸庭園、約 100 品種、約 1300 本の梅が咲き誇る梅林や市民の森・記念樹の森などがあり、都市に貴重で豊かな緑を提供している。 また、平成 27 年（2015 年）４月からは、民間事業者によるパークマネジメントが開始され、新たに賑わい施設が設置されるなど、歴史観光拠点としてさらなる魅力向上が図られている。
○	大阪府庁本館	建築物	大正 15 年（1926 年）竣工。現行の都道府県庁舎としては最も古い。外壁に石材と白い擬石タイルを広く用い、勾配のない水平の屋根とした外観意匠に特色があり、正面玄関の車寄せには個性的な装飾が施されている。大理石仕上げの床や階段をもつ 3 層吹き抜けの玄関ホールは、映画やドラマのロケにも利用されている。
○	クリスタルタワー	建築物	平成 2 年（1990 年）、大阪ビジネスパークの西側、二つの川が合流する場所に完成した超高層ビル。「中之島からの遠望が新しい水都大阪の代表的な都市景観である」として第 12 回大阪まちなみ賞※を受賞している。
○	旧第四師団司令部庁舎	建築物	昭和 6 年（1931 年）に陸軍の第四師団司令部の建物として竣工。終戦後は駐留軍施設として接収された。昭和 23 年（1948 年）、大阪市警察本部として返還を受け、府警本部となった後、昭和 35 年（1960 年）から平成 13 年（2001 年）まで大阪市立博物館として使用されていた。 現在は、大阪城公園のパークマネジメント事業者により、平成 29 年（2017 年）10 月からミライザ大阪城としてリニューアルオープンし、多くのショップやレストランなどが大阪城を訪れる人々を楽しませている。

（３）主要な視点場

＜視点場の着眼点＞

主要な視点場の設定にあたって、留意すべき景観特性は次のとおりとする。

○緑に浮かぶ特徴的な大阪城天守閣

・中遠景においては、大阪城天守閣が大阪城公園内の樹木上に広がりのある空を背景として浮かび上がる景観を望むことができる。
・大阪を代表するランドマークの一つである大阪城天守閣を、より魅力的でシンボリックに見せることにより印象的な景観の演出が可能である。

○視覚効果が生きる印象的な眺め

・大阪城天守閣を中心に広がる大阪城公園のランドスケープは、橋梁やアプローチ空間の構造物等による視線誘導や切り取りなど、大阪城天守閣を多様に望むことができる。
・大阪城公園内の樹木等の計画的な剪定等により、大阪城天守閣への眺めをより印象的に演出することが可能である。

○風物詩を感じさせる特徴的な眺め

・近世以降、市民の生活や祭礼に寄り添う場としてにぎわった大阪城は、現在においても花見やイルミネーションなど四季や催事に応じた演出が景観を特徴付けている。
・四季や時間帯に応じた視点場の整備や照明等により、風物詩としての魅力を演出することが可能である。

○歴史の重層性を感じさせる景観

・大阪城公園周辺には、大阪城天守閣を中心に徳川期の石垣、古代宮殿の存在を語る難波宮跡公園、現代のビル群など、各年代の景観要素を同時に見ることができる。
・大阪城天守閣と景観要素との調和や対比など、歴史の重層性を演出することが可能である。

○大阪城天守閣を見通す歴史的な眺め

・高麗橋通や平野町通など、近世の大坂城下町では通りの両側の櫓屋敷越しに大阪城天守閣への見通しが確保されていたと考えられる。
・現在、これらの眺めは十分に確保されていないものの、かつて見えていたという歴史の事実から往時の景観に思いを馳せ、シビックプライドを醸成する演出が可能である。

＜視点場の設定＞

主要な視点場の設定にあたっては、大阪城天守閣を眺望できる場所であり、かつ、人々が集い、見渡せる・見通せる場所である公共空間から選定し、建築物等の誘導を図ることを目的とする視点場と普及啓発を図ることを目的とする視点場に分けて整理する。

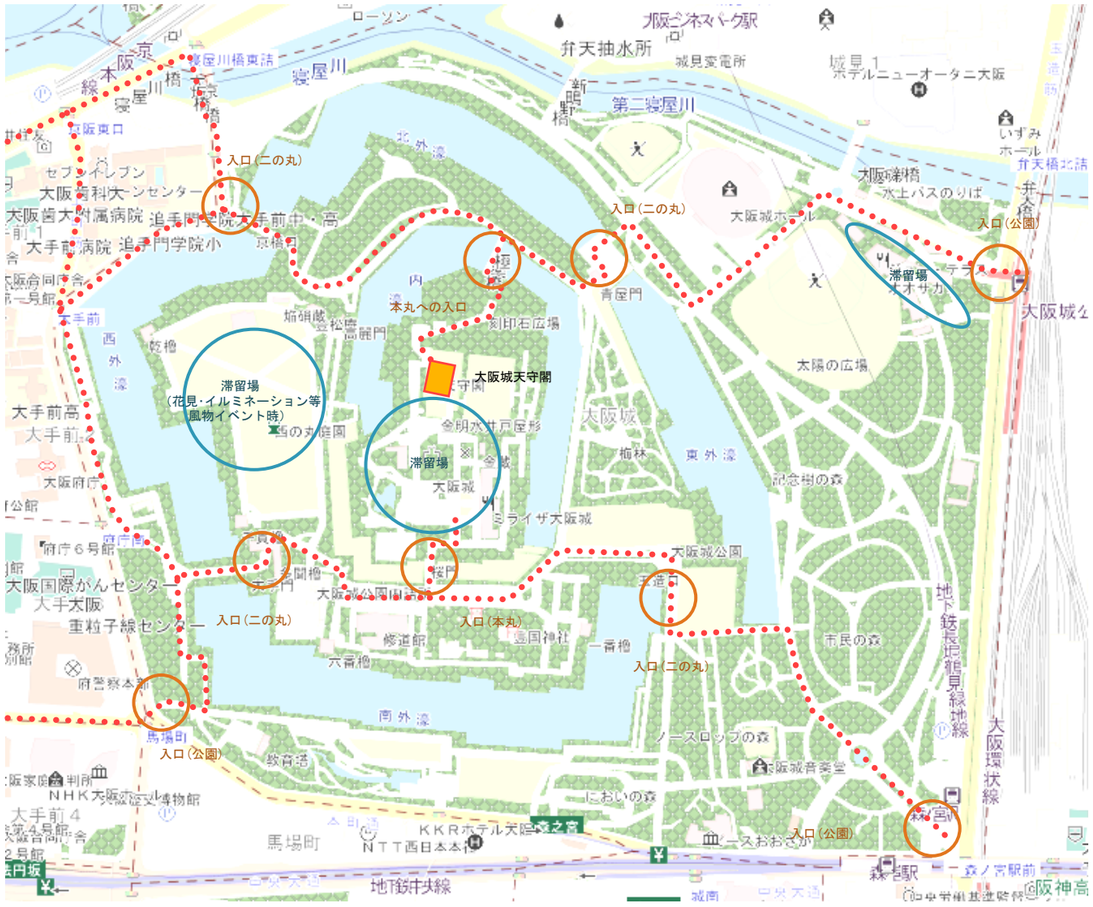
❶建築物等の誘導を図る主要な視点場

各年代において人々に親しまれてきた歴史的なランドマークである大阪城天守閣への視点場を設定し、市民のシビックプライドを醸成する景観形成を図るため建築物等を誘導する。

なお、周辺に景観資源となるものがある場合は、それらの見え方についても配慮を求める。

❷普及啓発を図る主要な視点場

大阪観光の代表である大阪城公園への来訪者の動線の中に“見せ場”となるフォトジェニックな大阪城天守閣への視点場や歴史的な景観に思いを馳せる視点場を設定し、さらなるにぎわいの形成に資するとともにシビックプライドを醸成する魅力を情報発信する。

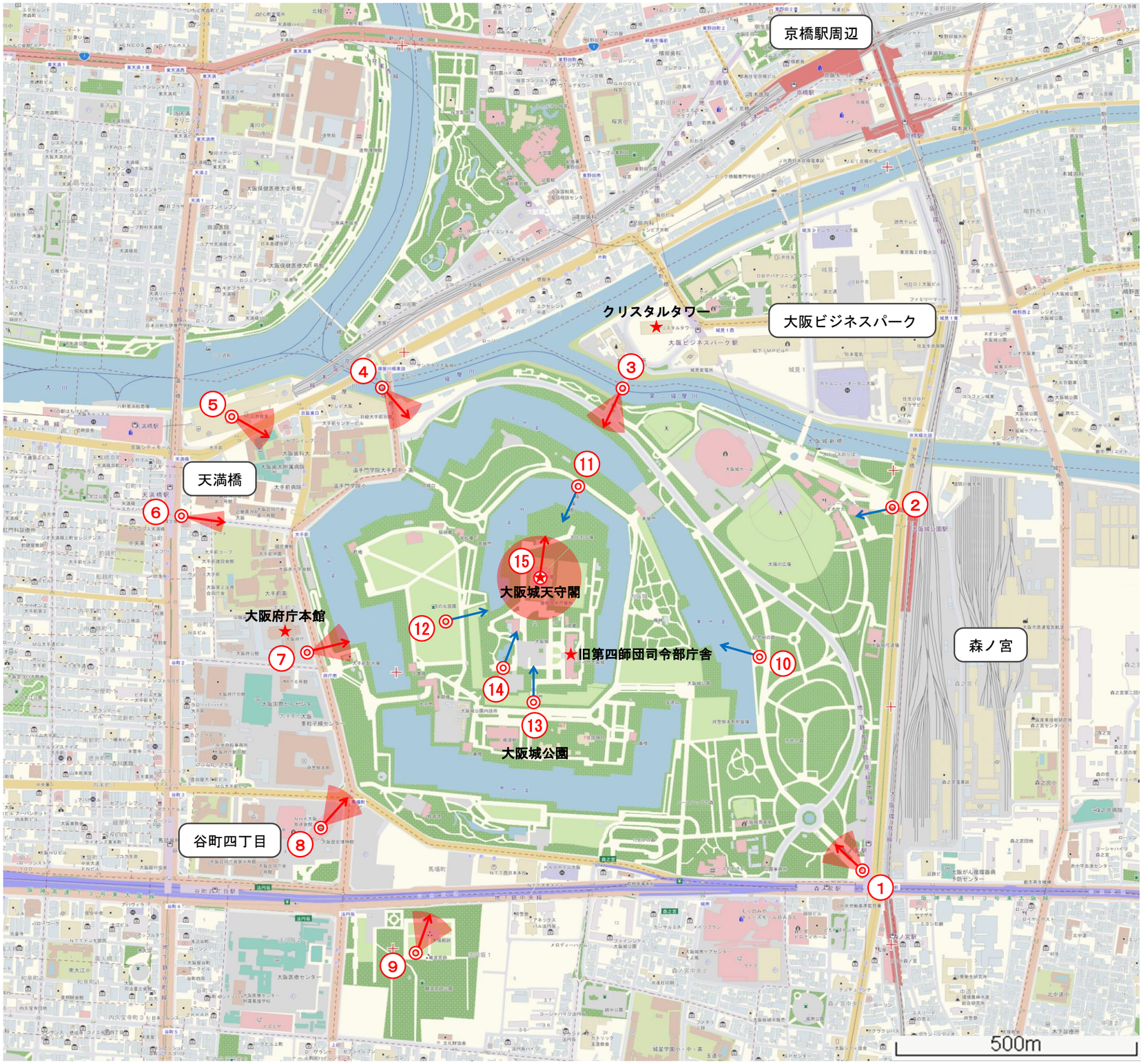


想定する来訪者の主要動線

主要な視点場	❶建築物等の誘導			❷普及啓発	
		対象となるエリア	配慮すべき主要な景観資源		対象となる景観資源
①森ノ宮駅	●	天満橋	大阪城天守閣	●	大阪城天守閣
②大阪城公園駅	—			●	大阪城天守閣
③新鴫野橋・城見緑道	●	谷町四丁目	大阪城天守閣	●	大阪城天守閣
④大坂橋	●	森ノ宮	大阪城天守閣	●	大阪城天守閣
⑤OMMビル展望台	●	大阪ビジネスパーク 森ノ宮	大阪城天守閣	●	大阪城天守閣
⑥高麗橋通（谷町１交差点）	●	天満橋 森ノ宮	大阪城天守閣	●	大阪城天守閣
⑦大阪府庁前	●	森ノ宮	大阪城天守閣	●	大阪城天守閣
⑧大阪歴史博物館展望台	●	大阪ビジネスパーク 京橋駅周辺	大阪城天守閣	●	大阪城天守閣
⑨難波宮跡公園	●	大阪ビジネスパーク 京橋駅周辺	大阪城天守閣	●	大阪城天守閣
⑩東外濠東側遊歩道	—			●	大阪城天守閣
⑪極楽橋	—			●	大阪城天守閣
⑫西の丸庭園	—			●	大阪城天守閣
⑬桜門	—			●	大阪城天守閣
⑭本丸	—			●	大阪城天守閣 旧第四師団司令部庁舎
⑮大阪城天守閣展望台	●	大阪ビジネスパーク 京橋駅周辺 天満橋 谷町四丁目 森ノ宮	大阪城公園 大阪府庁本館 クリスタルタワー	●	周辺のまちなみ

※③新鴫野橋・城見緑道、⑨難波宮跡公園、⑩東外濠東側遊歩道、⑫西の丸庭園の視点場は、代表的な地点を図示したものであり、周辺の公共空間からの見え方も確認する必要のある視点場とする。

＜位置図＞　主要な視点場



※下記の視点場は、代表的な地点を図示したものであり、周辺の公共空間からの見え方も確認する必要のある視点場とする。

③ 新鴫野橋・城見緑道
⑨ 難波宮跡公園
⑩ 東外濠東側遊歩道
⑫ 西の丸庭園